

風しんが関東及び大都市を中心に流行しています！！
神戸市内では流行していませんが、注意が必要です。
あなた自身の予防接種歴や、免疫があるかを確認し、なければ予防接種を受けて免疫をつけましょう。

現在の関東を及び大都市を中心とした流行では、風しん患者のうち約8割が男性で、特に30～40代の男性が多く感染しています。30～40代男性は、他の年齢層に比べ風しんの予防接種を受ける機会がなく、受けていない者の割合が高いため、注意が必要です。

妊婦、特に妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児も感染し、難聴、心疾患、白内障等の障害を持って生まれてくる場合があります。(先天性風しん症候群)

風しんは予防接種を受けることで感染を防ぐことができます。

生まれてくる赤ちゃんを守るために、予防接種歴・免疫の確認を行い、予防接種を検討しましょう。

(※麻しんの感染も防ぐため、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)の接種を推奨しています。)

風しんについて

★**症 状** : 全身に広がる赤い発しん、発熱、耳の後部や首すじのリンパ節の腫れ

★**特 徴** : 発しんが出る1週間前から他の人へ感染させます。

発疹出現後7日間はウイルスが排泄されるので、手洗い・マスク等の予防策が必要です。
大人がかかると、子どもに比べて発熱や発しんの期間が長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

★**感染してから症状がでるまでの期間** : 2～3週間

★**感染経路** : 飛沫感染、接触感染

(平成30年度) 神戸市では風しん予防接種の一部助成を行っています

先天性風しん症候群を予防するため、下記の助成対象の方は風しんの予防接種を検討しましょう。

【助成対象者】

接種日現在、神戸市に住民登録があり、かつ下記の(1)～(3)のいずれかに該当する人

- (1) 風しんの抗体が十分でない妊娠を希望する15歳以上43歳未満の女性
- (2) (1)の同居者のうち、風しんの抗体が十分でない人
- (3) 風しんの抗体が十分でない妊婦の同居者のうち、風しんの抗体が十分でない人

※「風しんの抗体が十分でない」とは下記の①または②に該当する人

- ① 罹患歴がなく、かつ予防接種歴がない。
- ② 採血日が平成29年4月1日以降の検査で抗体価が低い。(HI法では抗体価16倍以下をいう。)

【助成期間】平成30年4月1日～平成31年3月31日の接種分

【助成の方法】神戸市内の契約医療機関(ホームページに一覧掲載)で接種を受けて下さい。

(助成額は2,500円です) 契約医療機関以外で受けられた接種についての助成はありません。

詳しくは

神戸市風しん予防接種

検索



「風しん単独ワクチン」・
「麻しん・風しん混合ワクチン」の
どちらか1回に限り助成

